

身薰胡一作狐臭、衣集蟻虱、手如鐵瓠、足如鐵杖、施粉似狐面、著經猶猿尻、淫佚而不擇、上下嫉妬而不修、心操織紵裁縫、甚以手筒也、家治營世、頗以無跡形也。

〔日本書紀垂六〕十五年八月壬午朔、立日葉酢媛命爲皇后、以皇后弟之三女爲妃、唯竹野媛者、因形姿醜、返於本土、則羞其見返、到○到原脫據類聚國史補葛野、自墮輿而死之、故號其地謂墮國、今謂弟國訛也。

〔大鏡五太政大臣兼通〕この閑院の大將殿光朝は、のちにはこの君達のは、をばさりて、びはの大納言のぶみつの卿のうせ給にし、のち、そのうへのとしおひて、かたちなどわるくおはしけるにや、ことなる事きこえ給はざりしをぞすみ給ひし。○中この北方繼室光は、ねりいろのきぬのわた

あつきふだつばかりに、まろはがまうちきてぞおはしける、とし四十まばかりなる人の、大將には、おやばかりぞおはしける、色くろくて、ひたひにはながたうちつきて、かみちべけたるにぞおはしける、御かたちのほどをおもひまりて、さまにおひたるさうぞくとおほしけるにや、まことにその御さうぞくこそ、かたちにあひてみえけれ。

〔梅園日記四〕坂額非醜女

坂額を醜女といふ説は、吾妻鏡を讀て、文義を味ざる誤なり、彼書云、建仁元年六月廿八日、藤澤四郎清親、相具囚人資盛姨母號坂額女房參上、其疵雖未及平減、相構扶參云々、左金吾可覽其體之由、被仰仍清親相具參御所、左金吾自簾中覽之、御家人等群參成市、重忠、朝政、義盛、能員、義村以下候侍所、通其座中央、進居于簾下、此間聊無諛氣、雖比勇力之丈夫、敢不可耻對揚之疵也、但於顔色、殆可醜ニウカレ陵園妾廿九日、阿佐利與一義遠主、以女房申云、越州囚女被定、既配所者、態欲申預云々、金吾御返事云、是爲無雙朝敵、殆望申之條、有所存云々、阿佐利重申云、全無殊所存、只成同心之契約、生壯力之男子、爲奉護朝廷、扶武家也云々、于時金吾伴女面貌雖似宜、思心之武、誰有愛念哉、而義遠所存、已非人間之所好、由頻令嘲哢給、而遂以免給、阿佐利得之、下向甲斐國云々とあり、按するに、殆可醜陵園妾とい